

2 要配慮者避難支援のはじめ方

どんな支援が必要？

ニーズに合った支援を考えておこう

要配慮者は自力で避難ができない、災害情報入手できない、助けを呼ぶことができないなど、一人ひとり必要とする支援の内容が違います。事前に本人や家族から、手伝ってほしいことなどを聞いて、一緒に避難計画を作成しておきましょう。

主な特徴と必要な配慮

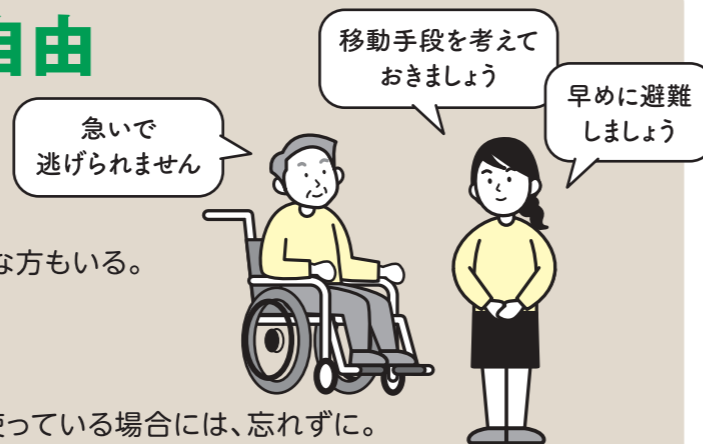
体を動かすことが不自由

特徴

- 移動に制約がある方もいる。
- 文字の記入が困難な方もいる。
- 体温調整が困難な方もいる。
- 話すことが困難な方もいる。
- 一時的な体調や病気、ケガなどの場合もある。

避難時の配慮

- 普段使っている車椅子で移動します。杖などを使っている場合には、忘れずに。
- 1人で車椅子に乗れない方は、2人以上の介助が必要です。
- スプーン、フォークなど自分に合った食器が必要な場合もあります。
- 話すことが困難な方には、まずゆっくり話してもらい、聞き取れなかったら遠慮せずに聞き返しましょう。
- 付添人(家族やヘルパーなど)と一緒にいる場合も、基本は本人に話しかけましょう。



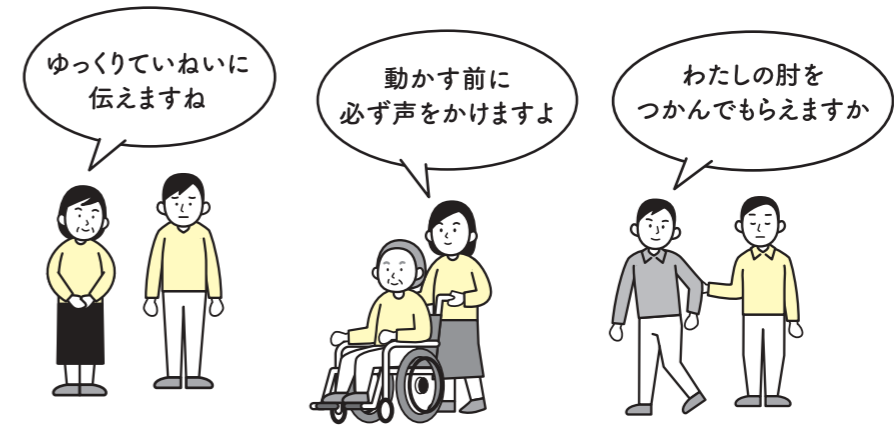
目が不自由

特徴

- 音声を中心に情報を得ている。
- 点字や拡大文字を用いるほか、レンズや拡大鏡を使用して情報を得る方もいる。
- 1人で行動できない方もいる。
- 文字の読み書きが困難な方もいる。

避難時の配慮

- 声をかけるとき、まずは名前を伝えましょう。
- ほかに人がいる場合、会話の最初に名前を呼ぶ必要があります。
- 「あれ」「これ」などの指示語は伝わりません。
- 本人が望む方法を聞いて移動の支援をしましょう(肩を貸してほしい、など)。



耳が不自由

特徴

- 視覚を中心に情報を得ている。
- 外見からはわかりにくい。
- 話せても、聞こえない方もいる。
- 補聴器をつけていても会話が聞きとりにくい場合もある。

避難時の配慮

- まず警報を知らせる必要があります。
- 避難時には筆談道具が必須です。
- どこに行くか、何をするか、筆談で伝えましょう。
- 筆談がむずかしければ、口を大きくあけて必要な情報だけを短くゆっくり大きな声で伝えましょう。



知的障がいがある

特徴

- 複雑な話や抽象的なことは理解しにくいこともある。
- 人にたずねたり、意見を言うのが苦手な方もいる。
- 漢字の読み書きや計算が苦手な方もいる。
- ひとつの行動や事柄に執着したり、同じ質問を繰り返すこともある。
- 話や返事をしていても、内容を理解できていない場合もある。

避難時の配慮

- 落ち着いて、ゆっくり、短い言葉で伝えましょう。
- 誰と、どこへ、何を連れて避難するのか確認しましょう。



※事前に本人が避難所への行き方を確認しておくことや、近所の方と顔見知りになっておくことが望ましいです。